

平成31年度  
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～

|     |            |      |
|-----|------------|------|
| I   | 調査の概要      | 1 P  |
| II  | 教科調査結果の概要  | 2 P  |
| III | 質問紙調査結果の概要 | 13 P |
| IV  | おわりに       | 21 P |

令和元年12月

留萌市教育委員会

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

## 3 調査の内容

### (1) 児童生徒に対する調査

#### ① 国語、算数・数学、英語

ア 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力など

※上記を一体的に問う。

#### ② 質問紙調査

- ・ 学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

### (2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 4 調査実施日

平成31年4月18日(木)

## 5 調査を実施した学校・児童生徒数

|         | 小 学 校    |             | 中 学 校   |           |
|---------|----------|-------------|---------|-----------|
|         | 実施学校数    | 児 童 数       | 実施学校数   | 生 徒 数     |
| 全 国(公立) | 19,263 校 | 1,028,203 人 | 9,513 校 | 938,888 人 |
| 北海道(公立) | 997 校    | 38,837 人    | 584 校   | 37,859 人  |
| 留 萌 市   | 5 校      | 144 人       | 2 校     | 121 人     |

## 6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

## II 教科調査結果の概要

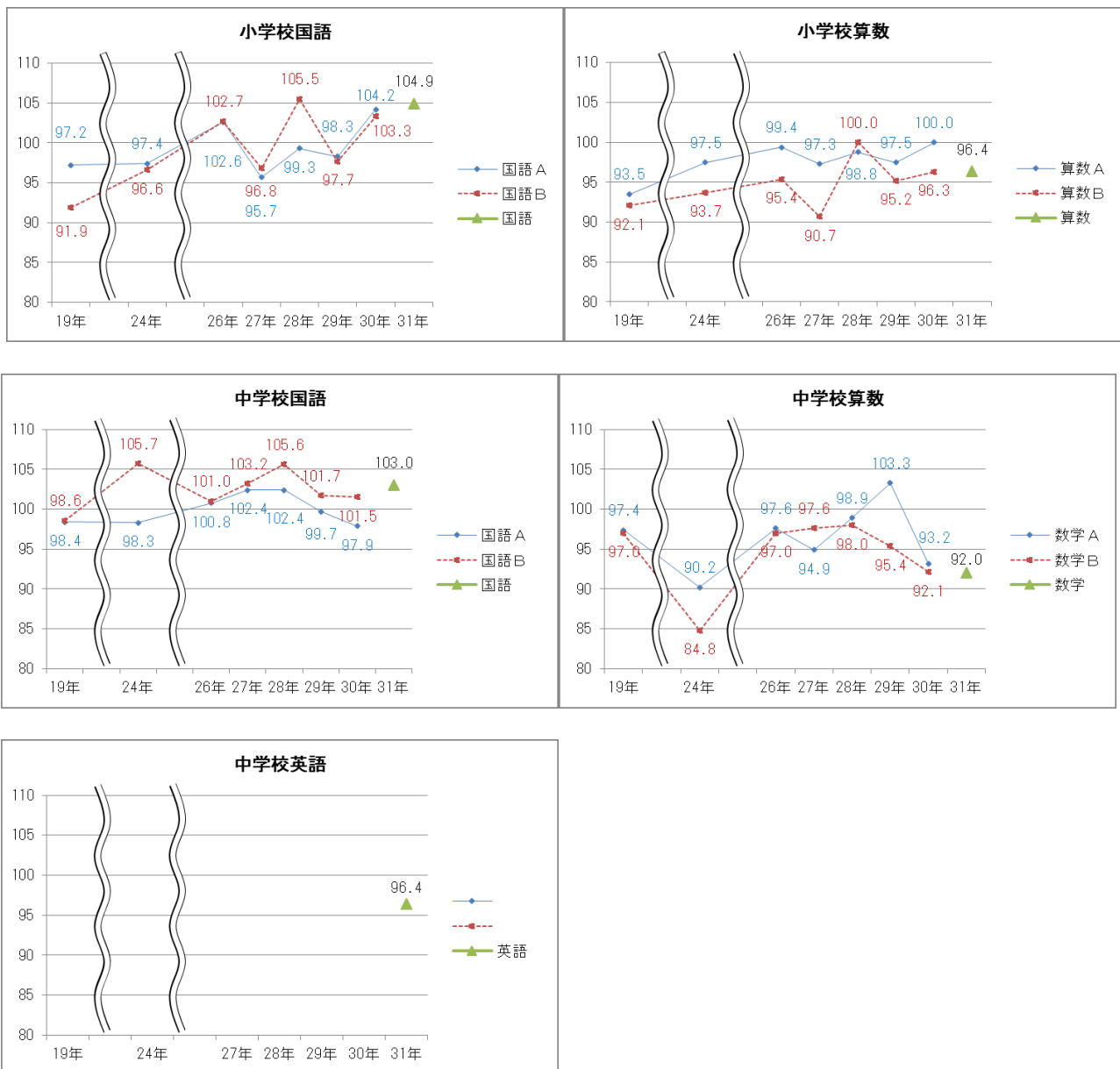
### 1 平均正答率から見る学力の状況の概要

#### (1) 平成31年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

|        | 小 学 校 |       | 中 学 校 |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 国 語   | 算 数   | 国 語   | 数 学   | 英 語   |
| 留 萌 市  | 66.9  | 64.2  | 75.0  | 55.0  | 54.0  |
| 北 海 道  | 62.8  | 64.5  | 72.1  | 58.1  | 54.2  |
| 全 国    | 63.8  | 66.6  | 72.8  | 59.8  | 56.0  |
| 北海道との差 | + 4.1 | - 0.3 | + 2.9 | - 3.1 | - 0.2 |
| 全国との差  | + 3.1 | - 2.4 | + 2.2 | - 4.8 | - 2.0 |

#### (2) 全国の平均正答率を100としたときの推移

※調査問題が毎年異なり、平均正答率を単純比較できないため、全国の平均正答率を100とする。  
 (市の平均正答率 ÷ 全国の平均正答率 × 100で算出)



- ◆全国の平均正答率を上回ったのは小学校国語、中学校国語である。
  - ◆全国の平均正答率を100としたときの推移から、小学校では、国語は、近年、全国の平均正答率を上回るか、下回っても5ポイント以内である。算数は平成28年度以降、全国の平均正答率を5ポイント以内で下回っている。
- 一方、中学校では、国語は、近年、主として活用に関する問題が出題された国語Bが全国の平均正答率を上回っており、知識と活用が一体的に出題された今年も全国の平均正答率を上回っている。数学は、平成29年度の数学Aを除き、全国の平均正答率を下回っている。

## 2 小学校国語

|     | 平均正答数    | 平均正答率 |
|-----|----------|-------|
| 留萌市 | 9.4問／14問 | 66.9% |
| 北海道 | 8.8問／14問 | 62.8% |
| 全国  | 8.9問／14問 | 63.8% |

### (1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べ高く、「書くこと」「読むこと」の領域もやや高い傾向である。
- ◆短答式・記述式の問題については、全国と比べ相当高く、選択式はやや高い傾向にある。

### (2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が11問に対して12問である。
- ◆正答数が13問の児童数の割合が、全国と比べやや高くなっている。

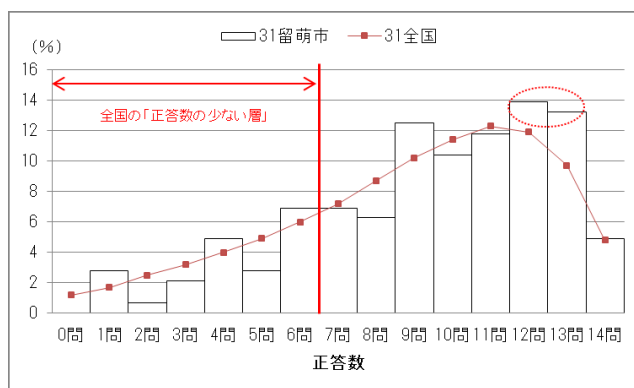
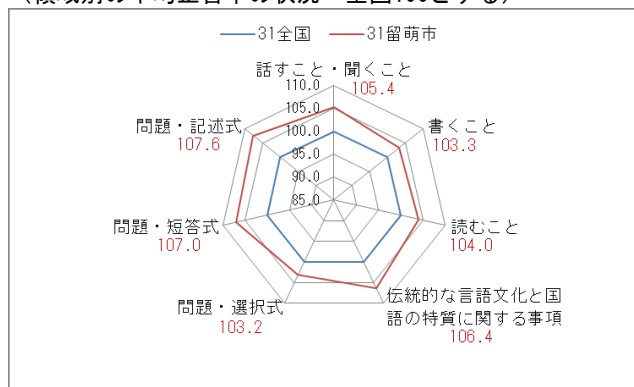
### (3) 設問別の正答率の概要

#### ①平均正答率が全国以上の設問数

|     |             |             |
|-----|-------------|-------------|
| H27 | A : 4 / 14問 | B : 3 / 9問  |
| H28 | A : 9 / 15問 | B : 7 / 10問 |
| H29 | A : 4 / 15問 | B : 6 / 9問  |
| H30 | A : 8 / 12問 | B : 6 / 8問  |
| H31 | 12 / 14問    |             |

- #### ②平均正答率が全国以下の設問から 特に取り上げる設問なし

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



### 3 小学校算数

|     | 平均正答数    | 平均正答率 |
|-----|----------|-------|
| 留萌市 | 9.0問／14問 | 64.2% |
| 北海道 | 9.0問／14問 | 64.5% |
| 全国  | 9.3問／14問 | 66.6% |

#### (1) 「領域別正答率」の傾向

- ◆「数と計算」「量と測定」の領域は、全国と比べ低く、「数量関係」の領域もやや低い傾向である。
- ◆短答式・記述式の問題については、全国と比べ低い傾向にある。

#### (2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が11問に対し、11問と13問である。
- ◆正答数が2問から5問までの児童数の割合が、全国と比べ高くなっている。

#### (3) 設問別の正答率の概要

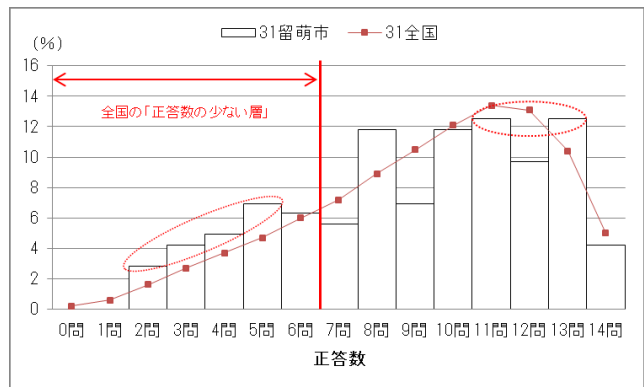
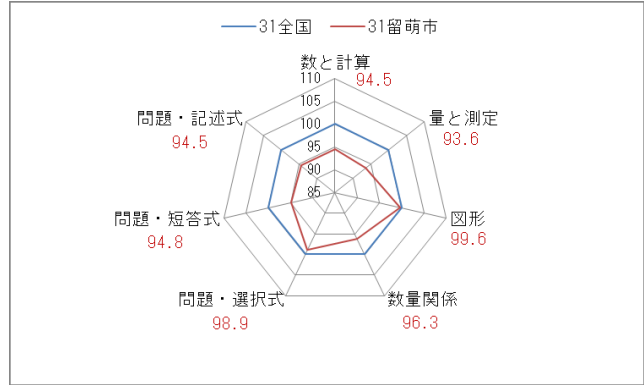
##### ①平均正答率が全国以上の設問数

|     |             |             |
|-----|-------------|-------------|
| H27 | A : 7 / 16問 | B : 1 / 13問 |
| H28 | A : 5 / 16問 | B : 7 / 11問 |
| H29 | A : 5 / 15問 | B : 3 / 11問 |
| H30 | A : 6 / 14問 | B : 4 / 10問 |
| H31 | 5 / 14問     |             |

##### ②平均正答率が全国以下の設問から

| 領域           | 出題の趣旨   | 設問の概要   | 留萌市正答率 | 全国正答率 |
|--------------|---|---|--------|-------|
| 数と計算<br>数量関係 | 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる | 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く | 69.4%  | 78.6% |
| 量と測定<br>数量関係 | 資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる  | 二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く          | 47.2%  | 52.1% |
| 数と計算<br>数量関係 | 示された除法の式の意味を理解している                            | 1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ                      | 42.4%  | 47.0% |
| 数と計算         | 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる         | 何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求め式を書く                          | 55.6%  | 68.6% |

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



算数において、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 資料の特徴や傾向を読み取る際は、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取ることができるようになることが重要である。
- 目的に応じて、必要な資料を収集し、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料から判断できない事柄についても判断することができるようになることが重要である。
- 問題を解決する過程で、演算を決定し立式した後、答えを求めるために計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫すると、計算を能率的にすることができることがあり、必要に応じて、それぞれの式が何を表しているかを振り返ることで式の意味についての理解を深めることができるようになることが重要である。
- 日常生活の問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見だし、数学的に表現できるようにすることが重要である。

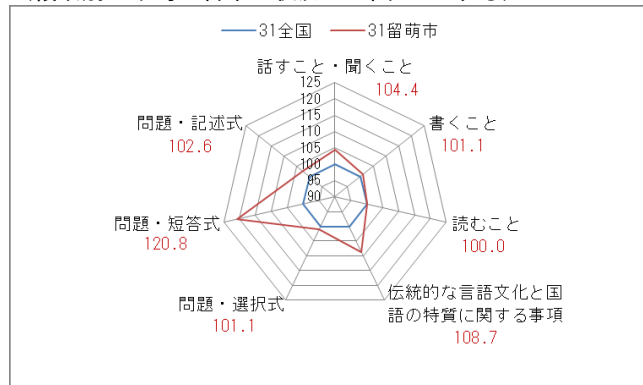
#### 4 中学校国語

|     | 平均正答数    | 平均正答率 |
|-----|----------|-------|
| 留萌市 | 7.5問／10問 | 75.0% |
| 北海道 | 7.2問／10問 | 72.1% |
| 全国  | 7.3問／10問 | 72.8% |

##### (1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

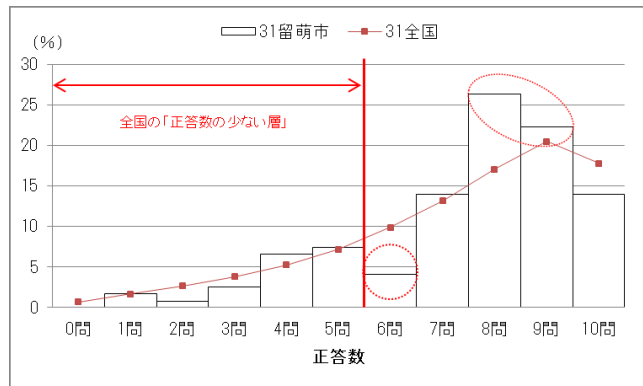
- ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国と比べ高く、「話すこと・聞くこと」の領域もやや高い傾向である。
- ◆短答式の問題については、全国と比べ相当高い傾向にある。

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



##### (2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆10問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が9問に対して8問である。
- ◆正答数が8問の生徒数の割合が、全国と比べ相当高くなっており、6問の生徒数の割合が全国と比べ低くなっている。



##### (3) 設問別の正答率の概要

###### ①平均正答率が全国以上の設問数

|     |            |          |
|-----|------------|----------|
| H27 | A : 22／33問 | B : 7／9問 |
| H28 | A : 27／33問 | B : 9／9問 |
| H29 | A : 18／32問 | B : 5／9問 |
| H30 | A : 14／32問 | B : 6／9問 |
| H31 | 8／10問      |          |

###### ②平均正答率が全国以下の設問から

| 領域   | 出題の趣旨                               | 設問の概要   | 留萌市正答率 | 全国正答率 |
|------|-------------------------------------|---|--------|-------|
| 読むこと | 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ | 「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものと適切なものを選択する | 57.9%  | 63.9% |

国語において、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えたり、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲な述べ方、さらに中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見の関係などの分掌の表現の仕方について考えたりすることが大切である。

## 5 中学校数学

|     | 平均正答数    | 平均正答率 |
|-----|----------|-------|
| 留萌市 | 8.8問／16問 | 55.0% |
| 北海道 | 9.3問／16問 | 58.1% |
| 全国  | 9.6問／16問 | 59.8% |

- (1) 「領域別・問題別正答率」の傾向
- ◆「数と式」「関数」「資料の活用」の領域は、全国と比べ相当低い傾向である。
  - ◆短答式・記述式の問題については、全国と比べ相当低く、選択式の問題についてもやや低い傾向にある。

- (2) 「正答数分布」グラフの傾向
- ◆16問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が13問に対して12問である。
  - ◆正答数が5問・10問・12問の生徒数の割合が全国と比べやや高くなっており、11問・14問の生徒数の割合が全国と比べやや低くなっている。

### (3) 設問別の正答率の概要

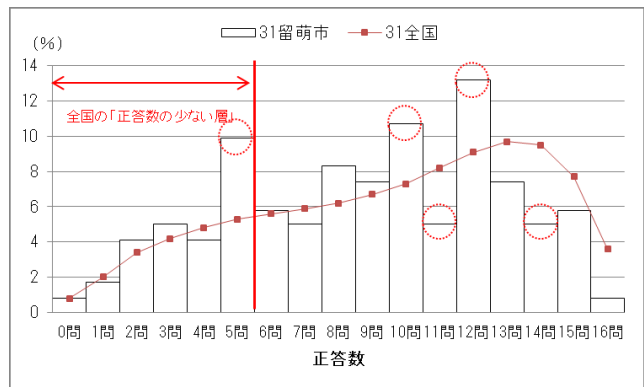
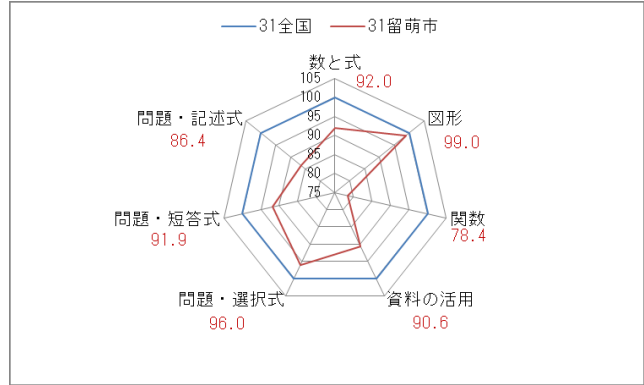
#### ①平均正答率が全国以上の設問数

|     |              |             |
|-----|--------------|-------------|
| H27 | A : 7 / 36問  | B : 5 / 15問 |
| H28 | A : 17 / 36問 | B : 7 / 15問 |
| H29 | A : 23 / 36問 | B : 6 / 15問 |
| H30 | A : 9 / 36問  | B : 1 / 14問 |
| H31 | 3 / 16問      |             |

#### ②平均正答率が全国以下の設問から

| 領域    | 出題の趣旨  | 設問の概要  | 留萌市正答率 | 全国正答率 |
|-------|--|--|--------|-------|
| 数と式   | 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる                          | 次の連立方程式を解く<br>$\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ | 58.7%  | 70.1% |
| 関数    | 反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができる              | 反比例の表から式を求める   | 37.2%  | 48.9% |
| 資料の活用 | 簡単な場合について、確率を求めることができる                         | 2枚の10円硬貨を同時に投げる時、2枚とも表の出る確率を求める                                    | 62.8%  | 72.8% |
| 関数    | グラフ上の点Pの $y$ 座標と点Qの $y$ 座標の差を、事象に即して解釈することができる | 冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pの $y$ 座標と点Qの $y$ 座標の差が表すものを選ぶ         | 29.8%  | 38.8% |
| 資料の活用 | 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる         | 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する            | 32.2%  | 40.8% |
| 数と式   | 事柄が成り立つ理由を説明することができる                           | 連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する                                  | 50.4%  | 59.7% |

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



数学において、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 連立二元一次方程式を解く場面において、2つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次連立方程式に帰着させて解くといった方針に基づいて、加減法や代入法を用いて解くことができるように指導することが大切である。  
また、連立二元一次方程式を解いて得られた値が解であるかどうかを確かめたり、誤って変形した例を示し、誤りを指摘し修正したりする場面を設定することも大切である。
- 表と式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉え、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができるように指導することが大切である。  
また、比例、反比例の特徴を見だし考察する際に、その比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現することができるようにすることが大切である。
- 起こり得る場合の数を基にして確立を求めるには、同様に確からしいと考えられる起こり得るすべての場合を正しく求めることができるように指導することが大切である。
- 問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面の設定、検討する活動を充実することが大切である。
- データの分布の特徴を捉えて、説明すべき事柄とその根拠を明確にして説明できるようにすることが大切である。
- 事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導することが必要である。

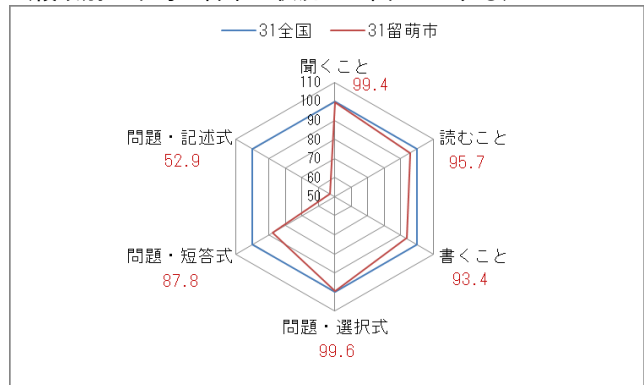
## 6 中学校英語

|     | 平均正答数     | 平均正答率 |
|-----|-----------|-------|
| 留萌市 | 11.3問／21問 | 54.0% |
| 北海道 | 11.4問／21問 | 54.2% |
| 全国  | 11.8問／21問 | 56.0% |

### (1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

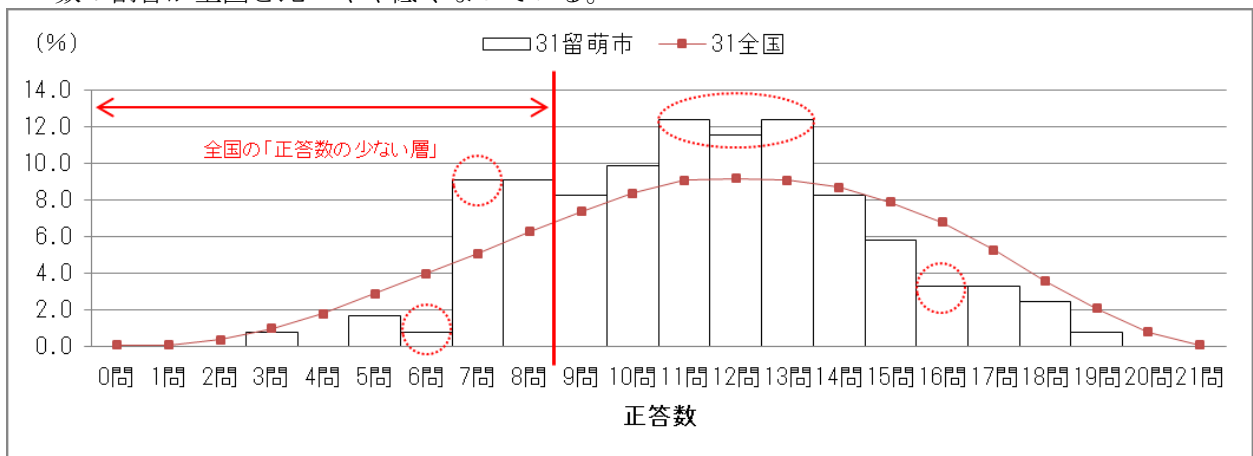
- ◆ 「書くこと」の領域は、全国と比べ低く、「読むこと」の領域もやや低い傾向である。
- ◆ 短文式・記述式の問題については、全国と比べ相当低い傾向にある。

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



### (2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆ 21問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が12問に対して11問・13問である。
- ◆ 正答数が7問・11問・13問の生徒数の割合が全国と比べやや高くなっており、6問・16問の生徒数の割合が全国と比べやや低くなっている。



### (3) 設問別の正答率の概要

#### ① 平均正答率が全国以上の設問数

|     |         |
|-----|---------|
| H31 | 7 / 21問 |
|-----|---------|



②平均正答率が全国以下の設問から

| 領域   | 出題の趣旨                                    | 設問の概要  | 留萌市正答率 | 全国正答率 |
|------|--|--|--------|-------|
| 聞くこと | 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる              | 外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する           | 64.5%  | 72.3% |
| 読むこと | 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる | ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する              | 65.3%  | 74.4% |
| 読むこと | まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる       | チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する      | 25.6%  | 32.8% |
| 書くこと | 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる           | 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く | 10.7%  | 28.9% |
| 書くこと | 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる   | 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く                        | 17.4%  | 32.9% |

英語において、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 情報を正確に聞き取るためには、英語の音声の特徴を踏まえて、事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解する必要がある。
- 簡単な語句で書かれた数文程度の英語を読み取るためには、既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構造を適切にとらえたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、書かれているものの内容や、必要とする情報を取り出すことができる力を身に付けさせる必要がある。
- 説明文などの大切な部分をとらえる際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるか等を判断することが大切である。
- 文を正しく書くためには、言語材料の定着が必要である。コミュニケーションにおいて時制や人称は大事な事柄であり、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。
- 言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することは大切である。

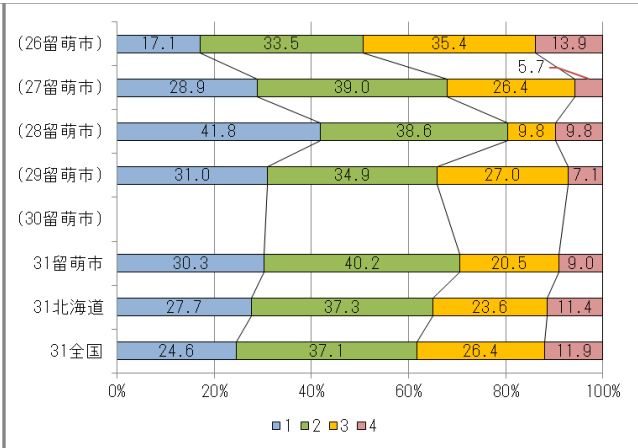
### Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。

#### 1 学習に対する興味・関心や授業の理解度等〈児童生徒〉

##### (1) 国語の勉強は好きですか

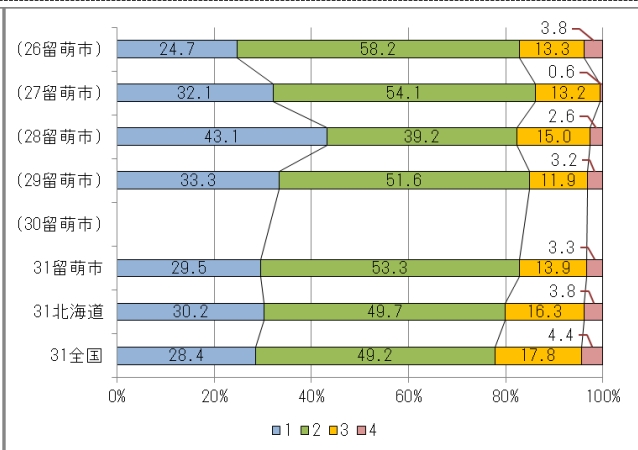
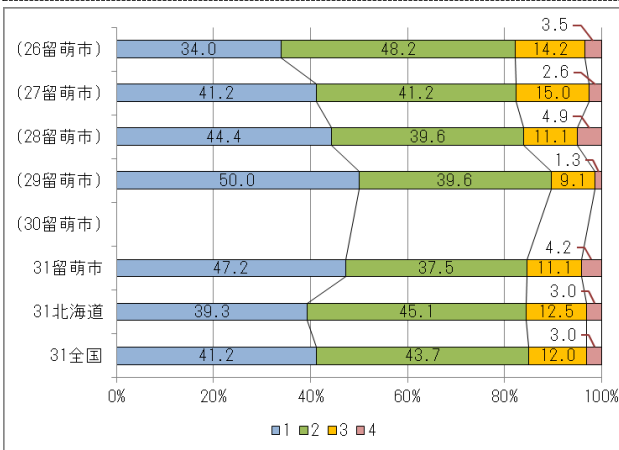
- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



※ 平成30年度は質問なし

##### (2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

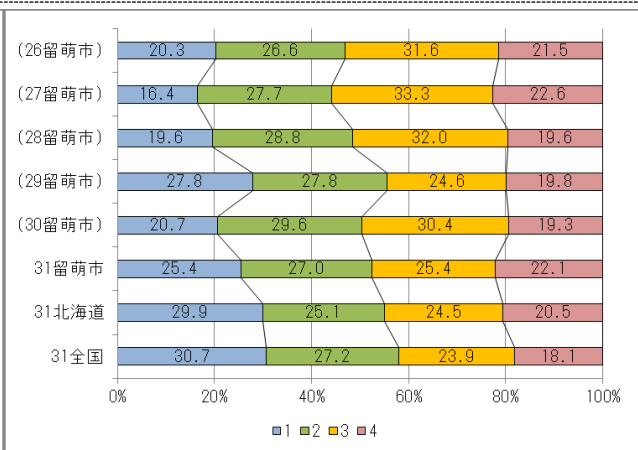
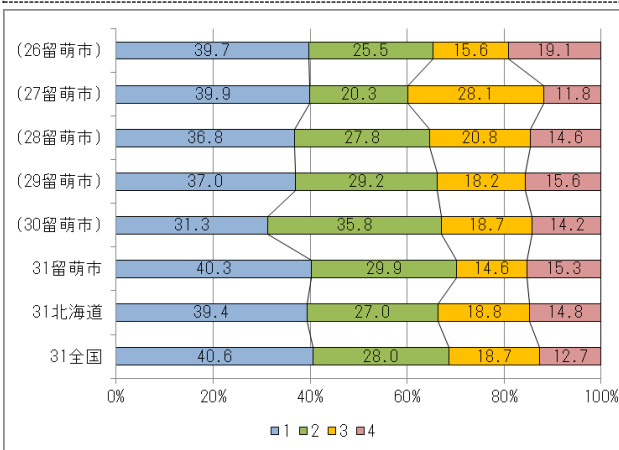
選択肢は (1) と同様



※ 平成30年度は質問なし

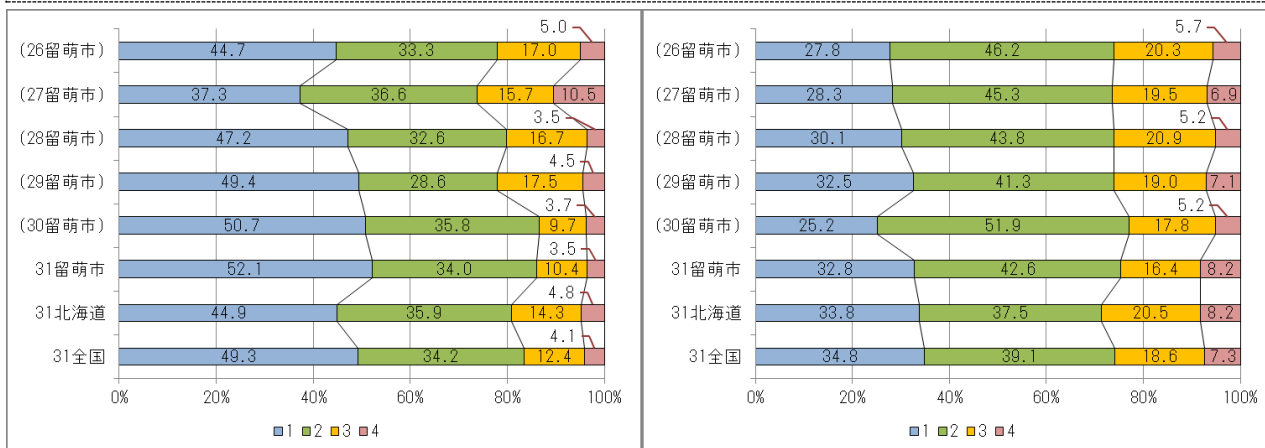
##### (3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は (1) と同様



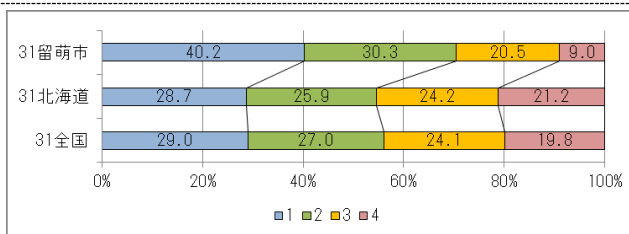
#### (4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



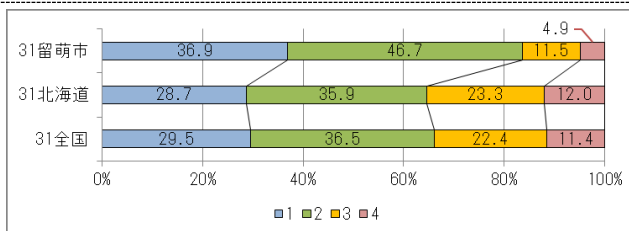
#### (5) 英語の勉強は好きですか (新規)

選択肢は(1)と同様



#### (4) 英語の授業の内容はよく分かりますか (新規)

選択肢は(1)と同様



#### 【小学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高い。
- ◆算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、平成27年度以降、増加傾向である。

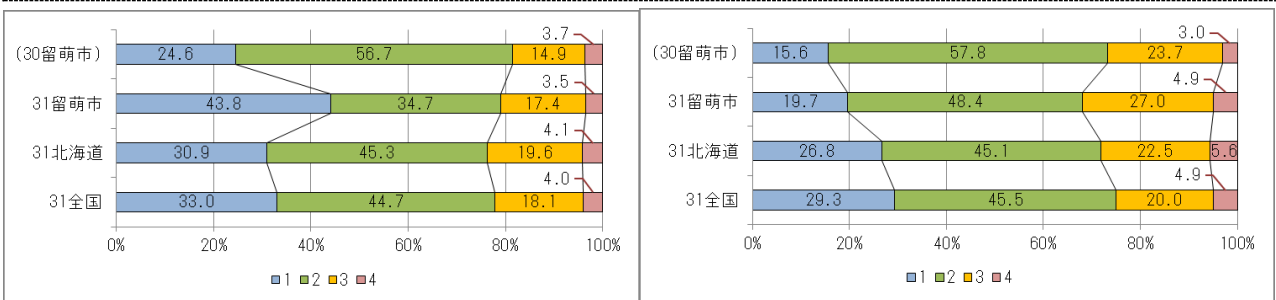
#### 【中学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高い。
- ◆国語の勉強が授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高い。
- ◆数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より低い。
- ◆英語の授業が好きである、授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高い。

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等に関する取組状況<児童生徒・学校>

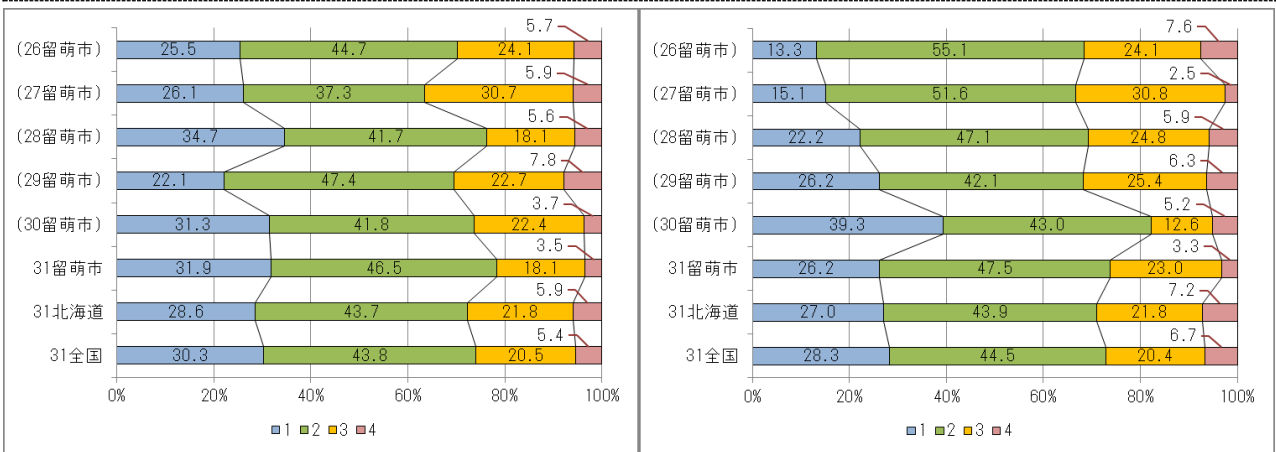
(1) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



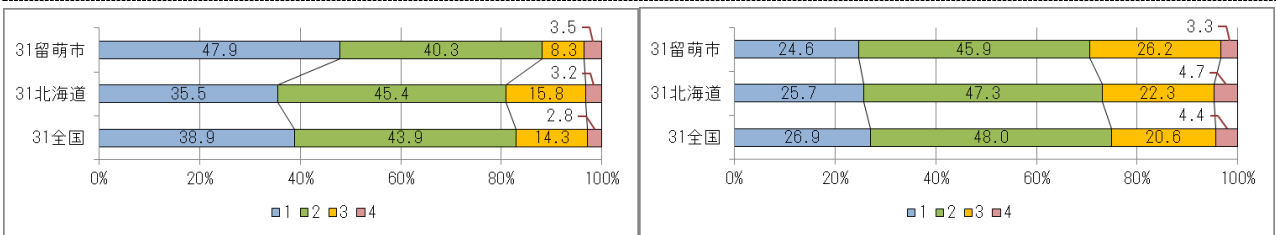
(2) 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない



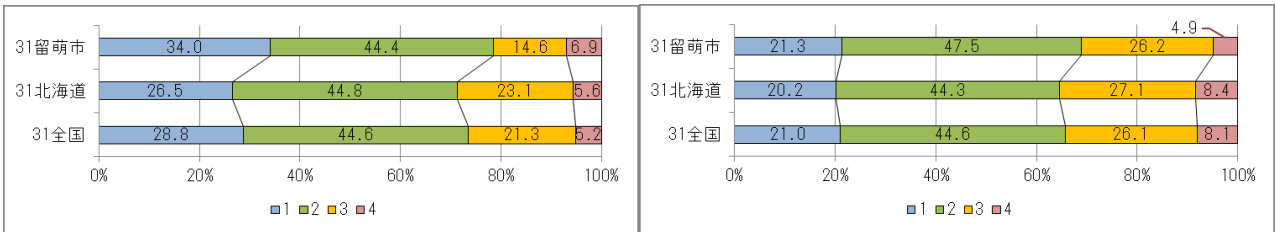
(3) 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか(新規)

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



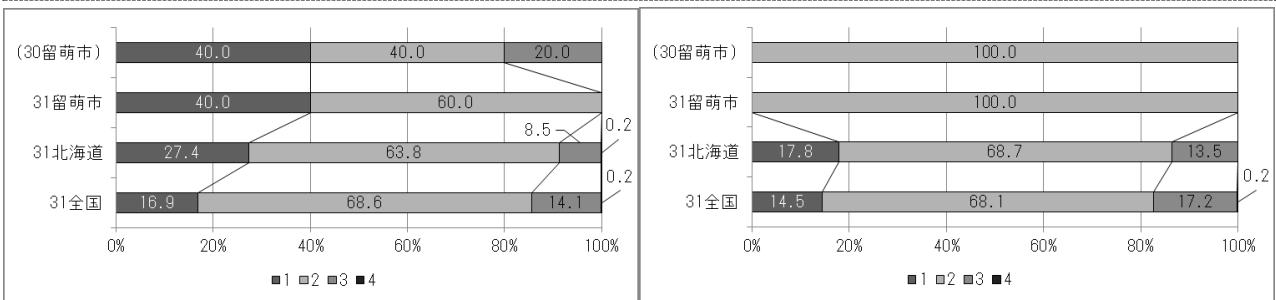
(4) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか (新規)

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない



(5) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

- 1 そのとおりだと思う 2 どちらかと言えば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない  
4 そう思わない



【小学校】

- ◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合は全国よりやや高い。
- ◆授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると思うと回答した児童の割合は、全国より高い。
- ◆学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合は、全国よりやや高い。
- ◆調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

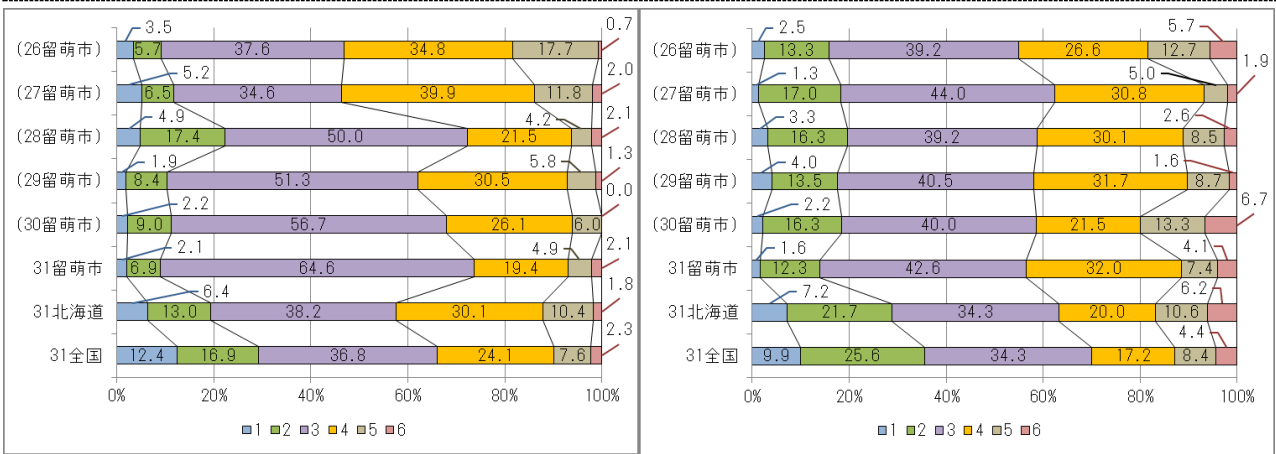
【中学校】

- ◆2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した生徒の割合は全国より低い。
- ◆授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると思うと回答した生徒の割合は、全国よりやや低い。
- ◆学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。
- ◆調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

### 3 学習習慣等<児童生徒>

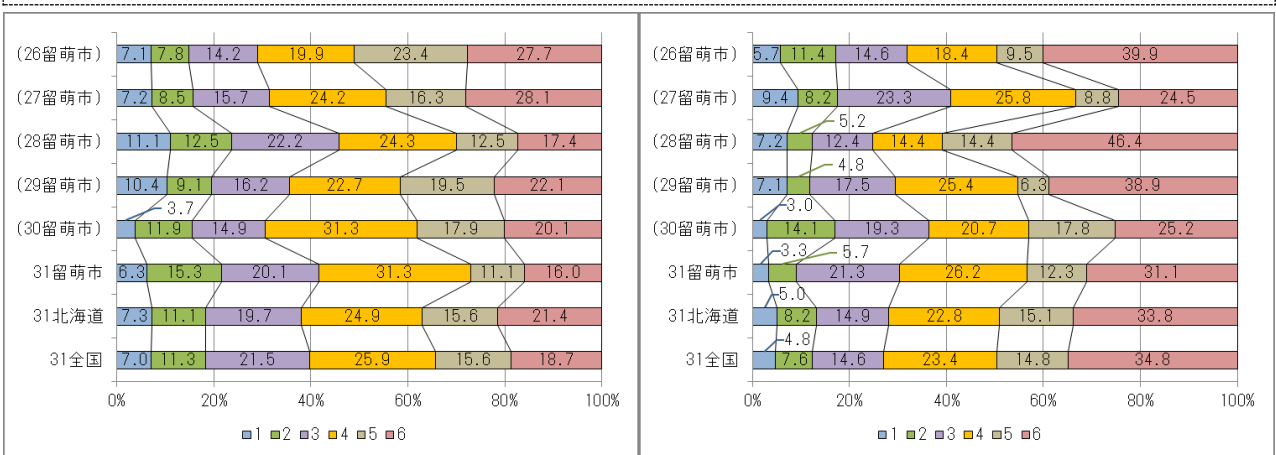
(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか  
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- 1 3時間以上    2 2時間以上、3時間より少ない    3 1時間以上、2時間より少ない  
4 30分以上、1時間より少ない    5 30分より少ない    6 全くしない



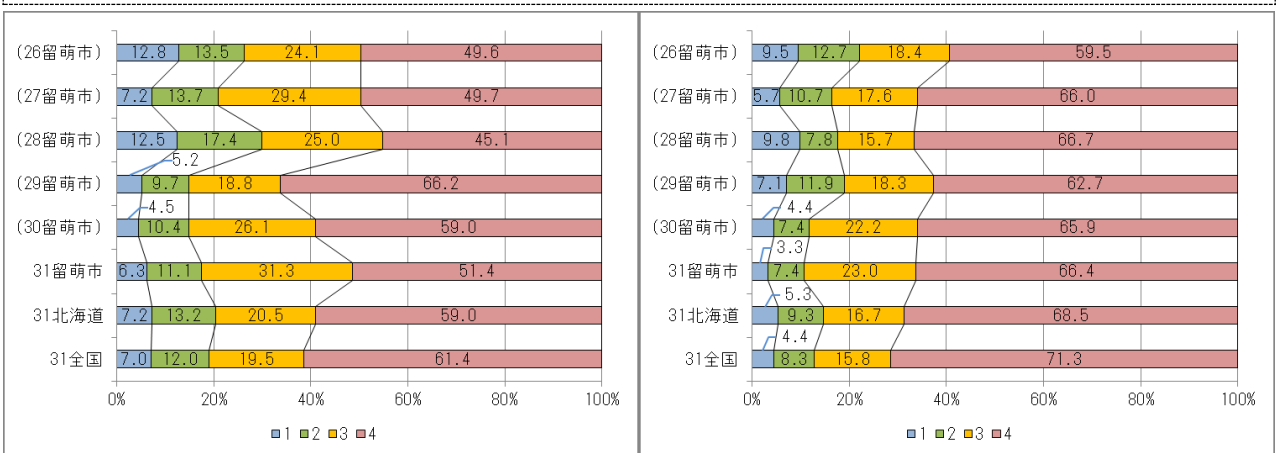
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか  
（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- 1 2時間以上    2 1時間以上、2時間より少ない    3 30分以上、1時間より少ない  
4 10分以上、30分より少ない    5 10分より少ない    6 全くしない



(3) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる    2 週に1～3回程度読んでいる    3 月に1～3回程度読んでいる  
4 ほとんど、または、全く読まない



【小学校】

◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は、全国より相当高い。

◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した児童の割合は昨年度より相当高い。

【中学校】

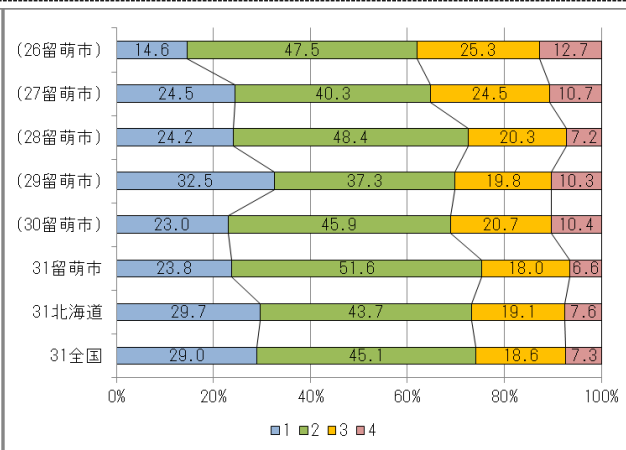
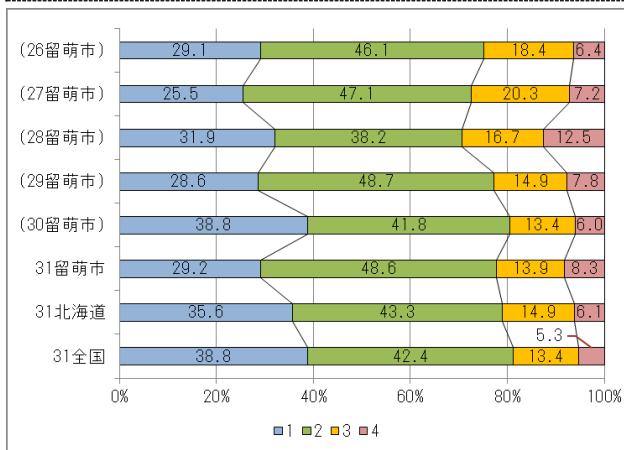
◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は全国より相当低い。

◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した生徒の割合は昨年度より低い、全国よりやや高い。

4 規範意識、自己有用感等＜児童生徒・学校＞

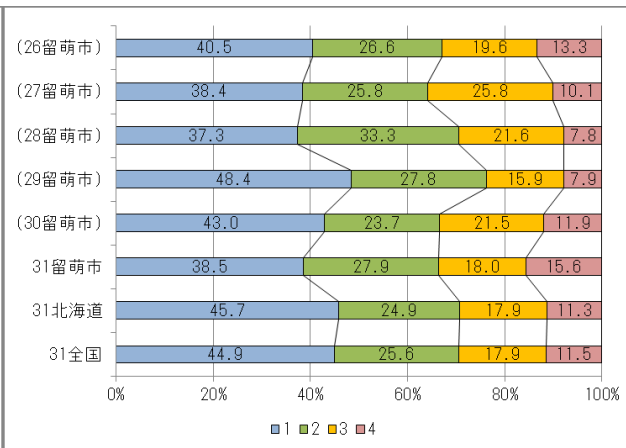
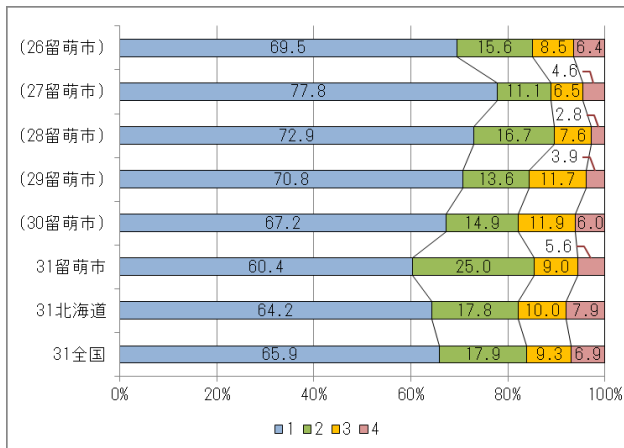
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

- 1 当てはまる    2 どちらかといえば、当てはまる    3 どちらかといえば、当てはまらない  
4 当てはまらない

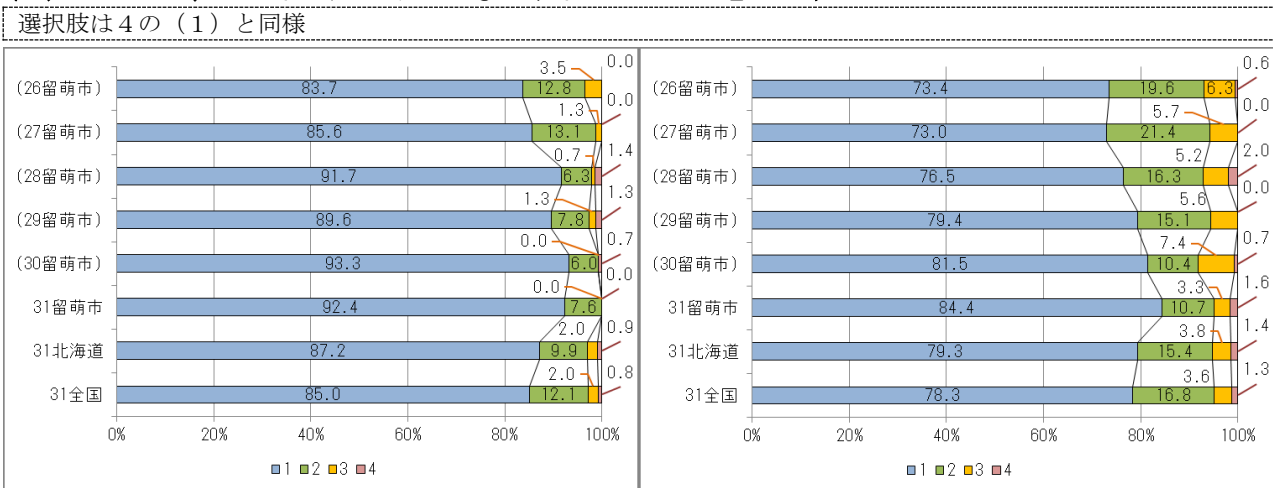


(2) 将来の夢や目標を持っていますか

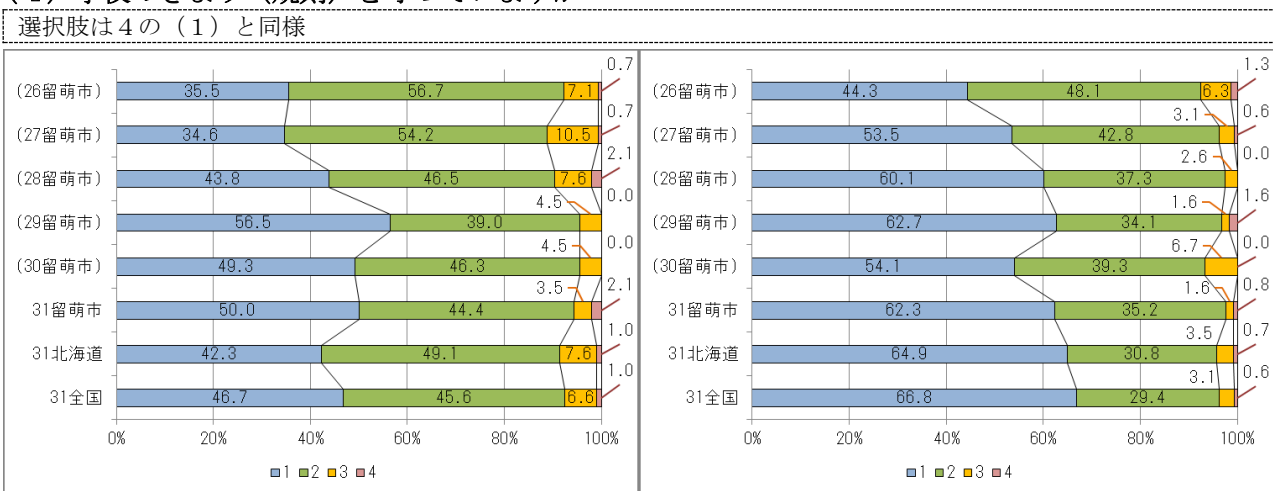
選択肢は4の(1)と同様



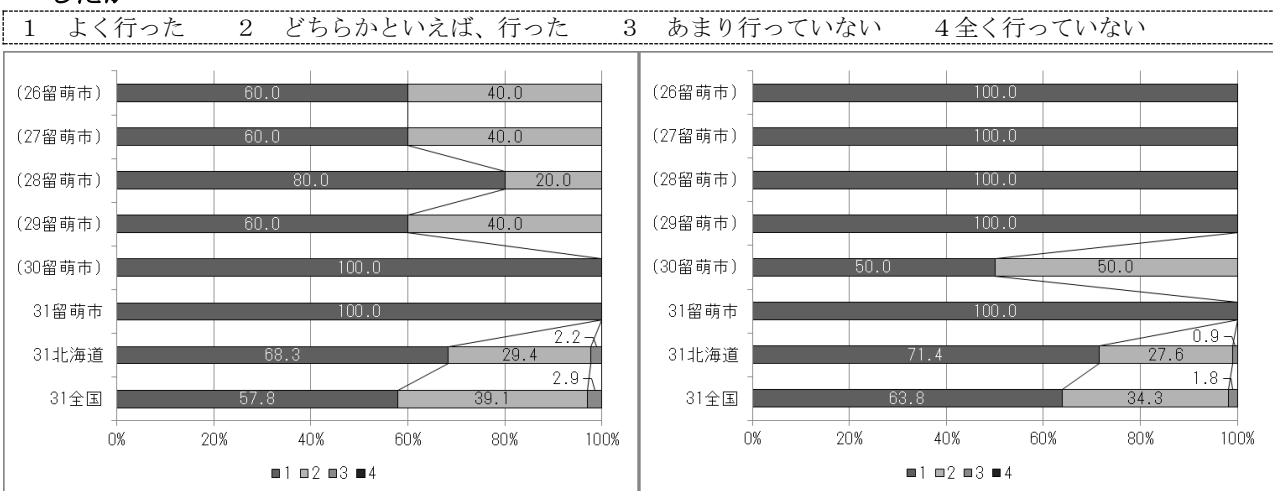
(3) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



(4) 学校のきまり(規則)を守っていますか



(5) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



【小学校】

- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、前年度より高いが、全国よりやや低い。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した児童の割合は、前年度よりやや高い。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、全ての児童が肯定的に回答している。



◆調査対象学年の児童に対して、前年度までに学習規律の維持の徹底をよく行ったと全ての学校が回答している。

【中学校】

◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、前年度より相当高い。

◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや低い。

◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した生徒の割合は、前年度よりやや高い。

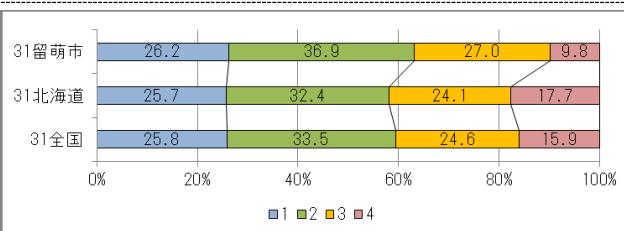
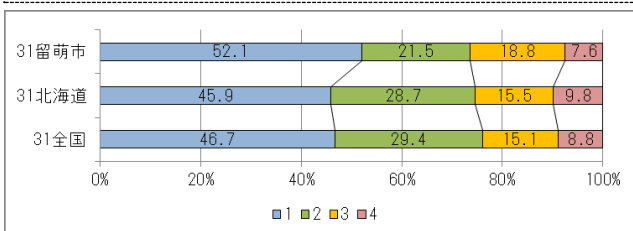
◆学校の規則を守っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。

◆調査対象学年の生徒に対して、前年度までに学習規律の維持の徹底をよく行ったと全ての学校が回答している。

5 地域や社会に関する活動の状況<児童生徒>

(1) 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか (新規)

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



【小学校】

◆日本や地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと回答した児童の割合は、全国とほぼ同様である。

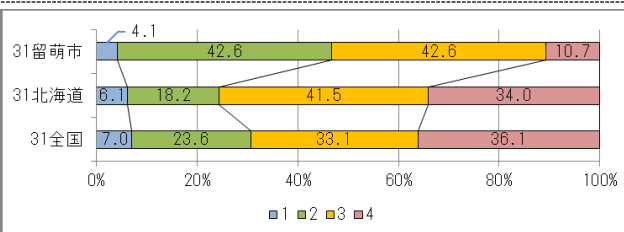
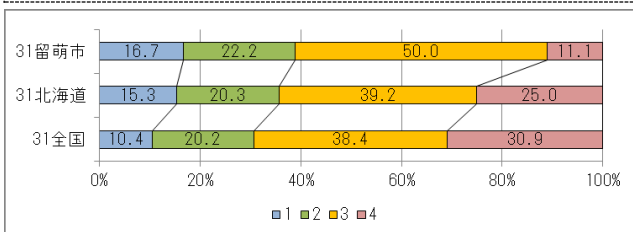
【中学校】

◆日本や地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うと肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。

6 ICTを活用した学習状況<児童生徒>

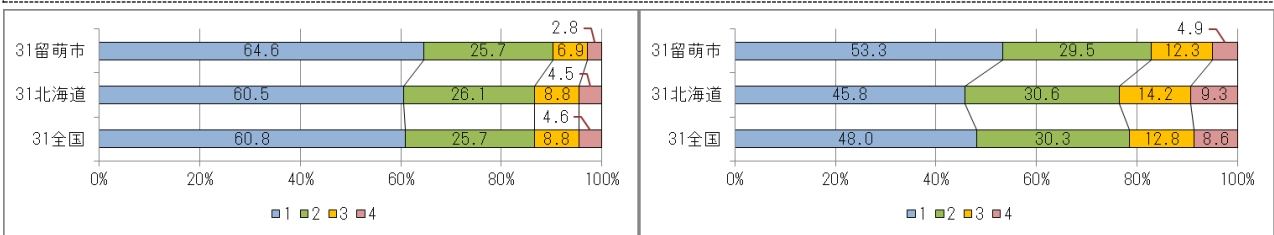
(1) 5年生(1、2年生のとき)までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使いましたか (新規)

- 1 ほぼ毎日 2 週1回以上 3 月1回以上 4 月1回未満



(2) 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか（新規）

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



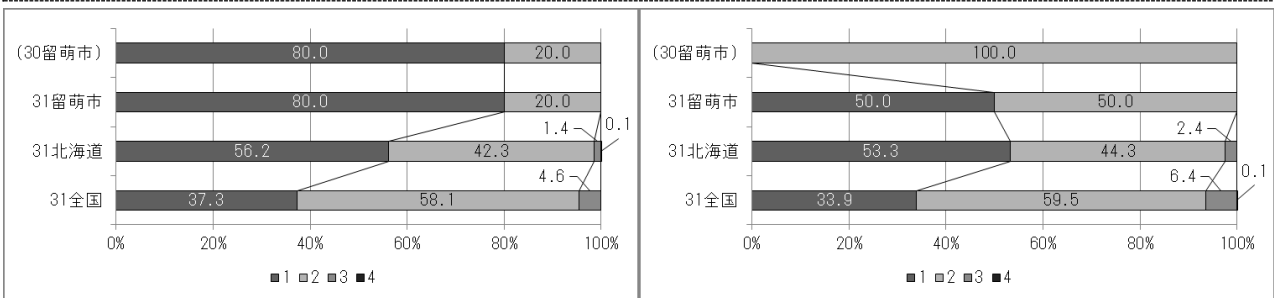
**【小学校】**  
 ◆ 5年生までに受けた授業では、週1回以上コンピュータなどのICTを使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高い。  
 ◆ 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高い。

**【中学校】**  
 ◆ 2年生までに受けた授業では、週1回以上コンピュータなどのICTを使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高い。  
 ◆ 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。

7 その他<学校>

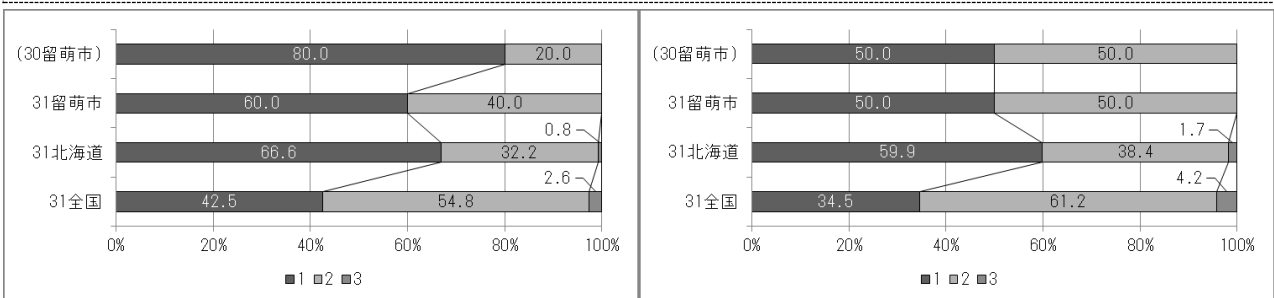
(1) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



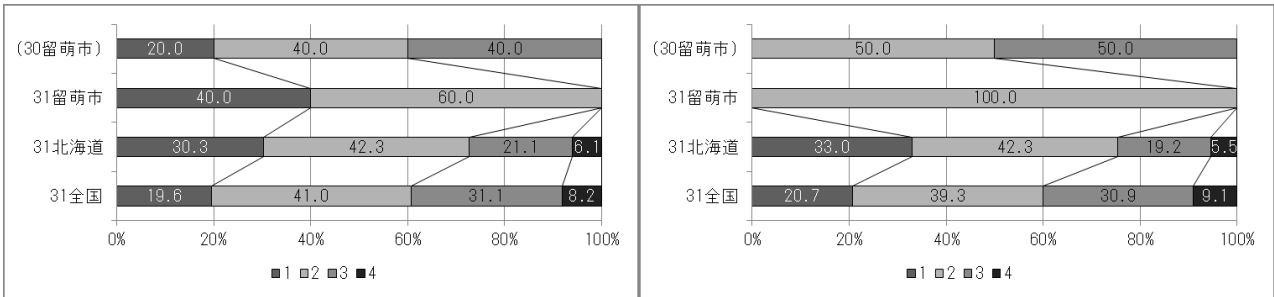
(2) 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行っていない



(3) 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか

- 1 よく行った    2 どちらかといえば、行った    3 あまり行っていない  
4 全く行っていない



- 【小学校】**
- ◆児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを全ての学校で確立している。
  - ◆平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
  - ◆平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣の中学校と成果や課題を共有が行われている。
- 【中学校】**
- ◆生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを全ての学校で確立している。
  - ◆平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
  - ◆平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣の小学校と成果や課題を共有が行われている。

## IV おわりに

本報告書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめ、報告としたものです。

また、本調査の結果は、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙から見える特徴的な事項等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「放課後や長期休業中の学習サポートの実施」「ICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」など、様々な取り組みを推進・展開しています。その結果、今年度は小中学校合わせて5教科のうち、2教科が全国平均以上にあります。今後は特に算数(数学)の確かな学力の定着に向けた授業改善等が必要であると考えています。

一方、児童生徒質問紙・学校質問紙からは学習内容の確実な定着のために向けて、学校と家庭、地域の共通理解のもと、引き続き学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を進めていくことが大切であることがわかります。さらに、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組むとともに、授業で学んだことを、ほかの学習に生かすことができるよう、学力向上と生徒指導の両面から9年間を見通して、小学校と中学校が連携しながら進めていくことも大切であります。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために最低限必要な学力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務であります。留萌市教育委員会と各小中学校において、「いま目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が共有し、連携協働しながら目に見える改善に今後も取り組んで参りますので、ご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。